

ご入会とご協力をお願い

「全国膠原病友の会」は、昭和46年11月28日に膠原病の患者と専門医、有識者の諸先生、その他の多くの方々の励ましと御支援により結成され今日に至っております。現在、会員は北海道から沖縄まで全国に及び、総数約5,500名に達するまでに発展し、各地区で友の会支部も結成されています。

膠原病という言葉は、1942年にアメリカの病理学者クレンペラーによって提唱されました。それは、身体の膠原線維を含む結合組織に共通した病変をみるいくつかの病気を総称して名付けられました。クレンペラーが膠原病に含めた病気は、1) 全身性エリテマトーデス、2) 全身性硬化症(強皮症)、3) 多発性筋炎・皮膚筋炎、4) 結節性多発動脈炎(結節性動脈周囲炎)、5) 関節リウマチ、6) リウマチ熱、の6疾患です。現在では、これらに加えて、7) シェーグレン症候群、8) 混合性結合組織病、9) ウェゲナー肉芽腫症、10) アレルギー性肉芽腫性血管炎(チャーク・ストラウス症候群)、11) 側頭動脈炎、12) 高安動脈炎(大動脈炎症候群)、なども膠原病に含まれるようになりました。

膠原病に含まれる病気は、未だ原因不明で、発熱、紅斑やレイノー現象などの皮膚症状、関節痛(炎)など共通した症状を認めます。さらに、病気によってきわめて多彩な内臓(腎臓、肺臓、心臓、脳、肝臓、消化管など)の障害を伴います。早期診断が望まれるところですが、不全型、重複例、移行型などもみられ、いずれの病気か診断困難な場合もしばしばみられます。医学の進歩により病態発症の解明とそれに対応する治療法の開発が進められていますが、現在でも、主たる治療は副腎皮質ステロイドや免疫抑制薬などの非特異的治療法で、原因療法が切望されています。

膠原病の多くは女性に好発し、特に、若い働き盛りの20歳代から40歳代に発病します。医療の進歩により生命予後の改善をみていますが、反面、長期療養を必要とする患者が増加しています。それに伴い治療薬剤による副作用や高齢化に伴う合併症で苦しんでいる方も増えています。一方においては、膠原病に対する一般社会の認識や理解が未だ充分に得られていないために、療養を続けながらの就職や就労などを含む社会的活動、結婚・出産・育児を含む家庭生活などにも支障を来しているのが現状です。

このような膠原病を患っている数多くの患者とその家族の方々が交流の場を持ち、お互いの苦しみや悩みを打ち明け、お互いが手に手を取って励まし合い、病気を乗り越え、生きがいのある人生を送ろう、との趣旨で結成されたのが友の会です。

膠原病友の会の目的を要約しますと、以下のごとくです。

- ① 膠原病をよく知り、理解を深め、正しい療養をする。
- ② 明るく希望の持てる療養生活を送れるように会員相互の親睦と交流を深める。
- ③ 膠原病の原因究明と治療法の確立ならびに社会的支援システムの樹立を要請する。

膠原病友の会の主な構成員は患者とその家族ですが、世の中の方々に広く膠原病を知っていただき、膠原病患者が抱えている多くの問題を社会に訴えていくには限界があります。そのため、一人でも多くの方に膠原病友の会をご理解いただき、ご支援いただきますことを切に願っている次第です。

友の会の趣旨にご賛同いただき、ご入会、ご協力下さいますようお願い申し上げます。